



# 月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.12.5 No. 3507

# 列車をより速く走らせるよりスト破り優先

## JR総連「当局による11・22・26スト破り糾弾」



動労千葉は、動労総連合の仲間とともに、動力車乗務員の勤務制度改革阻止、運転保安確立、「時短」と称する労働強化阻止を要求し、二波のストライキを貫徹しました。

この「十一・二二」、「十一・二六」ストに対して、JR東日本当局は、またしても不法・不当なスト破り攻撃に出してきましたが、全組合員の整然かつき然たる闘いで粉碎されました。

### 来られなかった 東京からの スト破り要員

今回の二波のストライキに対するスト破り攻撃が、一九八九年十二月五日のJR化後初めての「列車を止めるスト」以降の攻撃と大きく違うことは、昨今のJ総連の分裂・崩壊状況を反映して、JR総連革マル分子が、千葉支社や千葉運転区等の庁舎内へ入り込み、職制に圧力をかけたり、指示したりすることでも、東京からスト破り要員を大量に送り込むこともできなかったことです。

### 悪質化する スト破り攻撃

このJR東労・革マルによるスト破り応援団が来なかったことよって、多くの列車が運休に迫られました。そして、スト破り攻撃はより露骨で悪

質なものとなっていきます。動労千葉から強く申し入れたにもかかわらず、

① スト前日早朝から組合事務所への立ち入りを暴力的に阻止し、  
② スト突入前から泊勤務者や早朝出勤(前泊)者の乗務員を強制的に排除、あるいは寢室への入室を阻止するのみか、「ストに参加する意志があるのか」と問いただす明白な不当労働行為を強行する、

など、従来と同じようなスト破り行為を、より悪質なたちで強行し、さらに、千葉運転区や銚子運転区など革マル分子のいる区では、スト前日である十一月二五日の賃金支払いに当たって、日常的な支払い場所である事務室で支払わず、庁舎外や「玄関先」で支払うという暴挙にさえ出てきたのです。

### スト戦術拡大で 攻撃を粉砕

動労千葉は、この不法・不当な攻撃に対して、スト戦術を拡大し、はげげきしました。

われわれの決然たる闘いが、国鉄分割・民営化=JR化の総破綻ともいべき状況を拡大し、深化させ、JR東日本千葉支社内の反動職制とJR総連・革マル分子によるスト破り体制を粉碎しつつ或ることに確信をもって前進しよう!

## 津田沼支部定期大会を開催

十一月二八日、船橋市・東部公民館において、第十五回津田沼支部定期大会が開催され、動乗勤改悪粉砕の二波にわたるストライキの意義と「九二・三ダイ改」阻止へ向けた闘う決意をうち固めた。

大会は、菅谷副支部長の司会で十五時から開始され、あいさつに立った山田支部長は「三月の強制配転を乗り越え闘いぬいた。動乗勤改悪阻止、九二・三ダイ改粉砕へ第三波・第四波ストを闘いぬこう」と新たに闘う決意を表明した。

来賓として、まず中野委員長よりJR体制をゆるがした今次ストライキの意味と総括が提起された。続いて、今年四月の地方統一選挙でみごと三選を果たした中江船橋市議は「日本労働運動が資本に総屈服する中で、動労千葉の闘いは多くの労働者が注目している」と熱い激励と共に闘う決意が明らかにされた。一般経過、財政報告の後、九一年度方針が提起され、質疑に入り、①列車無線の扱い方の報告、②九一・三ダイ改んでの業務移管の矛盾点、③動乗勤改悪の問題点などが出され、今後も全力を挙げて闘うことが確認された。

最後に、山田支部長の首頭で力強く団結ガンパローを三唱し大会を終了した。



九一年度役員は次のとおり。

支 部 長	山 田 邦 夫
副 支 部 長	菅 谷 修
書記長	石 渡 英 夫
執行委員	荘 司 仁
"	鈴 木 文 男
"	斎 藤 市 郎
"	石 井 成 夫
"	大 川 原 洋
"	結 城 敏 之
"	浜 野 善 弘
特別 "	福 島 勝 之
青年部長	内 山 敏 光
会計監査	斎 藤 守 秀